



西小だより

山形市立西小学校
令和7年12月4日
校長 小林 聡

変わらない大切なもの ～東京デフリンピック開幕～

聴覚に障害を持つ方々の国際スポーツ大会「東京デフリンピック」が閉幕しました。連日報じられた県出身選手たちの活躍に、私たち県民は大いに勇気づけられました。

また、一年前、4年生が「福祉」の学習で交流したことも思い出しながら、いろいろなことを考える機会になりました。音が聞こえにくい中で生活するには、皆で力を合わせて、それらを少しでも改善するために様々な工夫を凝らしていることを知りました。例えば、来客がインターホンを押した時は、室内に取り付けたライトが光って知らせる仕組みがあるから安心だそうです。校内を案内した時には、階段にある鏡を見て「これがとてもありがたいんです。自分の後ろに誰がいるのか、どんな状態なのかがわかりますからね。」と教えていただきました。

4年生 手話であったかい交流会

「福祉」をテーマに総合的な学習を進めている4年生が、市社会福祉協議会、県聴覚障がい者情報支援センターのご協力を得て、耳の不自由な方との交流会を開きました。健常者が気づかない生活の中での不便さやそれらを解決する工夫、何より前向きに明るく生活を送っていらっしゃる姿から、多くのことを学びました。子どもたちが企画した手話を使っての歌やクイズも大変喜んでくださり、「おたがいにとって、とても有意義だった」との言葉をいただきました。関係者の皆様、ありがとうございました。

(令和6年12月号より)



選手たちの、私たちには想像もつかない不便さや不自由さ、時には恐怖を感じながら生活する中で培った競技力向上への努力は並大抵ではなかったはずです。手話で表現した「君が代」、明るくて前向きなパフォーマンス、とりわけ表情豊かにインタビューに答える姿には心を打たれました。

私たちが普段何気なく使っている話し言葉や周りから聞こえてくる様々な音が、いろいろなことを察知し、判断するためにどれだけ大きな材料になっているか、その大切さと有り難さを改めて考えなければならぬと思いました。

「共生社会はやさしい社会」。聴覚や体に障がいをもった人だけでなく、様々な不自由さを抱えた人と一緒に生活することで、相手を思いやる心と感謝の心が育ち、たがいにやさしい人になっていく。現状への不満よりも自分の力で目一杯伸びようとする向上心、不便な中からよりよいものを創り出す人間の知恵、人を支え、人に支えられながら生きる「おたがいさま」の心、自分を取り巻く人たちへの感謝の心…先人たちから受け継いできたこれらは、どんなに時代が移り変わろうとも、変わらない大切なものだと思います。

修学旅行 日本のお首都 東京へ

6年生は11月19日～20日、小学校生活での大きな思い出の一つ修学旅行に行ってきました。「かがやき」学年の名の通り、今年もお日様がかがやく秋晴れに恵まれた2日間でした。

高層ビルが立ち並ぶ大都市の景色やレインボーブリッジが架かる湾岸、スカイツリーから見下ろす夜景、…それらを目にするたびに歓声が上がりました。国会議事堂、未来科学館、浅草、上野動物園、国立博物館等…、本物に触れることでしか体感できない大きさ、立体感、空気感を肌で感じてきました。親元を離れた旅先で多くの人たちと出会い、自分たちの仲を一層深めることができた修学旅行は、学び多きものとなりました。



これが国会議事堂の内部



最新ロボットはすごい



かわいい動物たちに癒されて



きれいな夜景を見下ろしたよ



浅草を満喫



心揺さぶる けやき太鼓

けやき太鼓が始まって今年で28年。今年も11月1日(土)江南公民館祭のオープニングで堂々と演奏してきました。お客さんの心を揺さぶる太鼓の響きに、大きな拍手と称賛の声をたくさんいただきました。

満足感と充実感でいっぱいの子どもたちの次の発表は、2月に行われるサークルフェスティバル。今後のがんばりがまた楽しみです。



軽快な演奏 金管バンド

第52回山形市小学校吹奏楽発表会が市民会館で開かれました。軽快なリズムに乗って演奏した「小さな恋のうた」によって会場は思わず口ずさんでしまいたくなるような明るく楽しい雰囲気になりました。

前日の壮行式からさらに集中力を増し、これまでの課題を見事に克服したすばらしい演奏ができて、子どもたちは大満足でした。

